



水窪のむかしばなし（出版成果物）

学長特別研究実績報告書

浜松市天竜区水窪町における民間口承文化財（昔話）の採録調査

目的・概要

浜松市水窪協働センターとの連携によって各地区の自治会に協力を依頼し、地域の人々の昔話の採録調査を実施します。採録した語りは、「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字します。資料的価値や学術的価値、記録的価値を精査したうえで掲載できるものを精選し、地域と伝承の解説を添えて『水窪のむかしばなし』としての刊行をめざしました。

期間

平成 26 年 11 月 ～ 平成 27 年 3 月 31 日

研究担当者

文化政策学部 国際文化学科 准教授 二本松康宏

スケジュール

H26年5月2日	水窪協働センターとの初回打ち合わせ
H26年5月30日～6月1日	第1回採訪 大野、門桁、西浦
H26年6月27日～6月28日	第2回採訪 草木、上村、神原、門桁
H26年7月25日～7月26日	第3回採訪 門谷、草木、向島
H26年8月28日	補足調査
H26年10月24日～10月25日	第4回採訪 門谷、門桁、西浦、向島
H26年12月4日	補足調査
H26年12月20日	補足調査
H27年1月11日	補足調査

研究成果

調査では都合66名の方から話を伺い、昔話53話、伝説22話、世間話30話を採録しました。調査は浜松市天竜区水窪協働センターと調査地区ごとの自治会の協力を得て実施しました。静岡新聞社とも連携し、調査の様子や関連イベント、調査報告書の出版などを新聞で紹介。調査にあたった学生たちはラジオ番組などにも出演しています。調査の成果の一部は、平成27年3月に『水窪のむかしばなし』として三弥井書店から刊行しています。「静岡文化芸術大学 二本松康宏ゼミ編」とはせず、二本松康宏を「監修」として、学生5名による「編著」として学生一人一人の`個、の`成果、を目に見えるかたちにしました。



今後の研究成果の還元方法

上記のように、『水窪のむかしばなし』（三弥井書店、平成27年3月、定価1,000円(税別))を刊行しました。その成果は静岡新聞にも紹介されています。また、日本昔話学会の平成27年度大会（7月11日-12日、立命館大学）において研究発表をおこない、その審査においてきわめて高い評価を得ました。同学会の会誌『昔話—研究と資料—』第44号（平成28年3月発行予定）に論文として掲載される予定です。なお、平成27年度も水窪町での昔話採訪（第二次）をおこなっています。

